



空振りして落ちたボールを 再ティーアップして打った

2019
改定

状況



空振りしたはずみに、ティーから落ちてしまったボールを、拾い上げて、再度ティーアップして打ってしまった。



ティーから落ちたボールが
どこに止まったかが重要

解説

落ちてティーイングエリアに止まった球は再びティーアップして打っても無罰になりました。なお、ティーイングエリアの外に止まった球を再びティーアップしてプレーした場合は旧規則通り1打罰が科せられます。



目印を置いて ティーショットを打った

2019
改定

状況



ティーアップしたボールの後方に、打つ方向の目印として自分のクラブを置き、そのままティーショットをした。



ボールが止まった地点
から次打を打つ

解説

スタンスをとる時に援助となる物(例えば、クラブやアライメント用の棒)を置くことは全面的に禁止されました。言い換えれば、置いた瞬間2打罰を受けるので、ショットする前に目印を取り除いてスタンスをとり打っても2打罰には変わりありません。

**股抜ショットをした****2019
改定****状況**

近くに生えている2本の木の間にあるボールを、両脚を大きく開いて脚と脚の間を通して打った。

**2** ボールが止まった地点から次打をプレー**解説**

2019年からはコース上のいずれの場所においても、「プレーヤーは、故意に足をプレーの線(または球の後方延長線上)の両側に置いたスタンス、またはいずれかの足でプレーの線(球の後方延長線上)に触れたスタンスでストロークを行ってはならない」の規則が適用されることになりました。なお、グリーン上での例外については180頁を参照。



木をゆすって ボールを落とした

**2019
改定****状況**

ボールがひっかかったらしい木をゆすったところ、自分のボールが落ちた。

**元の位置にリプレース****解説**

2019年からは、探していて自分のインプレーの球を動かした場合は罰は科せられなくなりました。なので、この場合のように木をゆすって自分の球を落としても罰はありません。なお、落とした球はリプレースしてプレーするか、またはアンプレヤブルの救済処置(1打罰)をとってプレーします。



同伴競技者のボールが 止まらないうちにパットした

2019
改定

状況



同伴競技者がパットしたボールが止まらないうちに、ホールの近くで自分のボールを打った。



そのままプレー続行

解説

旧規則ではこのケースの場合、自分には2打罰が科せられました。しかし、2019年からは「無罰」となりました。ただし、同伴競技者には迷惑をかけることのないように注意しましょう。